

百舌鳥エリア

東アジアへ向けた古代王権の威信



百舌鳥エリアは、堺市内の東西・南北約4kmの範囲に広がっています。

4世紀後半から5世紀後半にかけて、この一帯には100基を超える古墳が造られました。しかし、都市化の進展などによってその半数が失われ、現在は44基の古墳が残っています。その中には、世界最大級の墳墓・仁徳天皇陵古墳(国内第1位)や履中天皇陵古墳(同3位)をはじめとする巨大前方後円墳などが含まれています。

また、百舌鳥エリアからは、様々な形をした埴輪のほか、金銅製の装身具、鉄製の馬具や武器などの副葬品が出土しています。これらの出土品には朝鮮半島や中国の影響が見られ、当時の日本に東アジアとの活発な交流があったことを示しています。

世界最大級の権力の象徴 仁徳天皇陵古墳



墳丘の長さが486mと世界最大の前方後円墳です。くびれ部には両側に突出した造出しがあり、三重の濠がめぐらされています。5世紀前半に造られた古墳で、周りには陪塚とされる古墳が10基以上もあります。

明治時代に石棺や甲冑などが発見され、その時描かれた絵図が伝わります。

江戸時代から伝わる仁徳天皇陵古墳の姿

昔の古墳の様子を描いた絵図が今でも伝わっています。墳丘の後円部頂上には大きな石が見え、墳丘は二重の濠に囲まれています。今の姿と比べてみてはどうでしょうか？



仁徳天皇陵古墳絵図(享保年間)
(堺市立中央図書館所蔵)

文化財保存のシンボル いたすけ古墳

仁徳天皇陵古墳の南東にある、墳丘の長さが146mの前方後円墳です。周りには陪塚とされる古墳が数基ありました。5世紀前半に造られたとされています。

昭和30(1955)年には開発の危機にさらされましたが、市民を中心とした運動によって保存され、昭和31(1956)年に国の史跡に指定されています。この古墳から出土した青の埴輪は、堺市の文化財保護のシンボルマークになっています。



いたすけ古墳出土
青形埴輪



孫太夫山古墳

仁徳天皇陵古墳との 関係がうかがえる 孫太夫山古墳

墳丘の長さが65mの帆立貝形墳で、仁徳天皇陵古墳の中心線の延長上に造られています。



収塚古墳

収塚古墳

墳丘の長さが59mの帆立貝形墳で、仁徳天皇陵古墳の南東隅に近接して造られています。埋没している濠を、舗装の色を変えて表示しています。これら2つの古墳からは、仁徳天皇陵古墳とほぼ同時期に作られた埴輪が出土しました。

古市エリア

連綿とつづく王の系譜



古市エリアは大阪府の東南部、藤井寺市から羽曳野市にかけて、東西・南北各4kmの範囲に広がっています。

4世紀後半から6世紀前半に形成されたこの巨大古墳群は、墳丘長400mを超える巨大な前方後円墳の応神天皇陵古墳(国内第2位)から、小型の方墳まで本来130基を超える様々な墳形と規模の古墳からなります。現存する45基のうち、墳丘長200mを超える巨大な前方後円墳は7基含まれています。

古墳に納められる副葬品には、鉄製の武器や武具が目立ちます。なかには1基の古墳から200本を超える刀や剣が出土した例もあります。一方、金や銀を使ったきらびやかな製品も含まれ、金メッキされた誉田丸山古墳出土の金銅製の鞍金具(国宝)はその代表です。

そびえたつ巨大王墓 応神天皇陵古墳



墳丘長425mで、堺市の仁徳天皇陵古墳に次ぐ全国第2位の規模です。また、古墳の盛土や体積では全国一の巨大古墳です。墳丘は三段築成で、くびれ部両側に方形の造出しをもち、濠と堤を二重にめぐらせています。

墳丘や内・外堤の斜面には葺石が施され、大きな円筒埴輪が2万本以上も並んでいました。埴輪の特徴から5世紀前半の築造とされます。

江戸時代の観光ガイドブック

江戸時代には「河内名所図会」という今でいうガイドブックのような書物がありました。そこで応神天皇陵古墳が紹介されています。古墳の上には応神天皇をまつる六角堂があり、そこへ至る桜並木とともに描かれています。



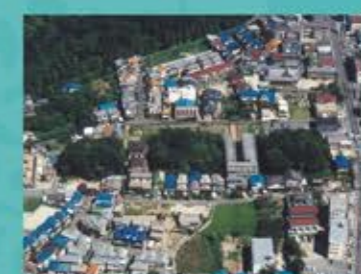
「河内名所図会」の応神天皇陵古墳のさし絵

市民の憩う神社と公園 津堂城山古墳

羽曳野丘陵の最北端にあり、古墳群の中では、初めに築造された大型前方後円墳で、墳丘の長さは210mです。墳丘の周囲には二重の濠と堤がめぐらされていました。昭和58(1983)年の発掘調査では3基の水鳥形埴輪が並んで見つかりました。室町時代には「小山城」となっていました。現在は、春には桜や菜の花が見られる公園として市民に親しまれています。



津堂城山古墳出土 水鳥形埴輪
(重要文化財)



古墳の築造技術解明 三ツ塚古墳

仲姫命陵古墳の南側に3基、東西に並んだ方墳の総称です。東から順に、八島塚古墳、中山塚古墳、助太山古墳と言います。八島塚古墳と中山塚古墳はともに墳丘が一辺50m、助太山古墳は一辺36mの方墳です。3つの古墳はほぼ同時期に造られたようです。

八島塚古墳と中山塚古墳の間の濠の発掘調査では大小二つの木製の修羅が見つかりました。



修羅(重要文化財)
重い荷物を載せて運ぶソリのような道具